

犠牲者の思いと平和な未来

富山県立富山高校 一年 飯田 朱梨

三歳のときに広島で原爆の被害を受けた飯田さん。四人家族だったが、被爆から一カ月後には、彼独りとなった。後遺症にも悩まされ、原爆のことは考えないようにしていたそうだが、しかし、平和記念式典に出席したことや被爆者の高齢化を知ったことなどから、彼は被爆の体験を本格的に語るうと思っただ。記事は伝えている。

被爆体験、私はこの文字に目が留まった。原爆のことなど忘れていたのだ。それと同時にこの記事が伝える内容に、私は深く考えさせられた。

私も実際に広島市の平和記念公園へ行くと、ボランティアの方々のお話を聞いたり、原爆ドームを間近で見に来た。また、原爆について詳しく調べたり、考えたりする時間は多くあったと思う。しかし、広島原爆を正確に理

解しているか、と問われてもきつと首を横に振るだろう。

この記事を読んで私はこのようなことを考えた。この先、広島原爆という辛い現実が年を追うごとに、日本人の頭から忘れられるのではないか、と。実際に、終戦から七十年が経つが、十代の私たちでさえこの過去を容易に受け入れることは難しい。言い換えると、この出来事は私たちにとってただの過去にすぎない。

しかし私はこのままではいけないと思う。もつと生きたい、死にたくないと怯えていた犠牲者の気持ちを後世に伝えていく必要があるのではないか。

では、私たちにできることは何だろう。無論、飯田さんのように原爆のことを語ることはできない。私たちがやり方により多くの存在を忘れないこと。これは重要な答えと人々に伝えていく。第一に、原爆とその犠牲者の存在を忘れないこと。これは重要な答えとなつてくると思う。第二に、自分の命を大切に

にすぎること。命というものは偉いものだが、
それと同時にとても重いものでもある。原爆
や戦争を奇跡的に生き抜いた人達が奇跡のよ
うにめぐり合い、新たな命が誕生する。その
命が大きくなれば、また奇跡のようにめぐり
合い……。この奇跡的な命の連鎖がある、
私たちは今生きている。自分に与えられた命
を精一杯生きるだけでも素晴らしきことだと
思う。きっと犠牲者は、平和な未来をこねか
らも願っている。直接的に原爆を伝え

られなくても、犠牲者の願う未来に向かっ
て精神していくことが、私たちに、この最高
な手段だと思ふ。そしてさうなる平和を求め、
犠牲者が一人も出ない世界に発展すること
を信じている。